

関東信越厚生局長 殿

学校法人 東邦大
開設者名 理事長 炭山 嘉

東邦大学医療センター大森病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	101.88人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	246人	144人	375.6人	看護補助者	52人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	3人	1人	3.9人	理学療法士	6人	臨床検査技師	91人
薬剤師	50人	1人	50.9人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	333人	0人	333.0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	43人	0人	43.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	596人	14人	603.1人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	8人	2人	9.5人	栄養士	2人	その他の技術員	33人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員	97人
管理栄養士	14人	0人	14.0人	診療放射線技師	47人	その他の職員	55人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	782.9人	2.8人	785.7人
1日当たり平均外来患者数	2376.0人	37.9人	2413.9人
1日当たり平均調剤数	入院 957.0剤	外来 293.0剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	Lactulose-水素呼気試験による小腸通過時間測定	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 小腸で吸収されないラフチェロースが大腸に到達すると、腸内細菌に分解される。このとき、CO ₂ 、H ₂ 、脂肪酸が生成される。この水素は吸収されて、呼気中へ排出されるため、呼気中水素を測定すると大腸へ到達した時間を 知ることができる。			
医療技術名	13C-acetate呼気試験による胃排出速度測定	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 13C-酢酸Naを液状食に混入して、飲用させると十二指腸へ排出されてから吸収される。そして13CO ₂ となり呼気へ排出されるため呼気中13CO ₂ を測定すると胃排出速度を知ることができる。			
医療技術名	13C-dipeptide呼気試験による膵外分泌の評価	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要: 13C標識ペプチドは膵から分泌されるカルボキシペプチダーゼによって分解され、13C-アラニンとなり吸収される。そして13CO ₂ となって呼気に排出される。そこで呼気中13CO ₂ を測定することによって膵カルボキシペプチダーゼ活性を知ることができる。			
医療技術名	クッキーテスト	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 糖代謝の評価は糖負荷試験で行われるが液体食であり、実際の食事とは大きく異なる。そこでクッキーを用いて血糖・インスリン・GLP-1を測定した。			
医療技術名	内視鏡的膵管ステント留置術	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 主膵管狭窄を伴う慢性膵炎例			
医療技術名	総胆管大結石例に対するESWL治療	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 他の碎石具による破砕が不能な総胆管結石例に対して、ESWL治療を施行している。			
医療技術名	内視鏡的乳頭部腫瘍切除術	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 十二指腸主乳頭部腺腫に対して内視鏡的切除を行っている。			
医療技術名	膵石症に対するESWL治療	取扱い患者数	11人
当該医療技術の概要: 主膵管内にある膵石症に対してESWLによる破砕療法を行っている。			
医療技術名	冠動脈リザーバーカテーテル留置術	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: リザーバー動注化学療法 肝動脈へ持続的に抗癌剤を流すために、カテーテルを胃十二指腸動脈へ留置し、ポート(動注ポンプ)を単頭部の皮下への植め込み、肝細胞癌に対する化学療法を行う。			
医療技術名	バルーン閉塞下逆行性静脈閉塞術	取扱い患者数	14人
当該医療技術の概要: 胃静脈瘤等を形成する側副血行路を経静脈的に閉塞する。			
医療技術名	腹腔-静脈シャント挿入術	取扱い患者数	2人
難治性腹水に対して腹腔-静脈シャントにより腹水のコントロールを行う。			
医療技術名	ロータブレータ	取扱い患者数	23人
当該医療技術の概要: DCA同様に冠動脈病変を機械的に取り除くアブレーションに属する治療である。先端にダイヤモンドチップを散りばめたパーの高速回転(毎分15-20万回転)により病変を破砕し末梢に洗い出す。透析患者など高度石灰化病変では本治療方法でのみ治療可能であり、施設基準により本邦においてロータブレータの			

施行可能な施設は限られている。	
医療技術名 電気生理学的検査	取扱い患者数 91人
当該医療技術の概要： 徐脈、上室性頻拍、心室性頻拍等の不整脈患者に対して、不整脈の起源、機序、薬物の有効性を評価する検査であり、不整脈診断と原因不明の失神に対しては、重要な検査である。	
医療技術名 加算的平均心電図	取扱い患者数 109人
当該医療技術の概要： 心房、心室の遅延電位を測定し、発作性心房細動、心室頻拍、心室細動などの重症不整脈を生ずる可能性を検出する検査法である。	
医療技術名 不整脈におけるカテーテルアブレーション	取扱い患者数 72人
当該医療技術の概要： 経皮的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、標的部位に固定して、体表に装着した対極板とのあいだで高周波通電を行い、頻拍の原因となる異常興奮発生部位、異常興奮回路・伝導路を選択的に焼灼し頻拍を根治する治療法である。適応疾患としてはWPW症候群、心房細動、心室頻拍など、ほぼ全ての不整脈である。3次元マッピングシステムの併用により開心術後不整脈にも行っている。	
医療技術名 血管内超音波(IVUS)	取扱い患者数 282人
当該医療技術の概要： 冠動脈造影では評価し得ない冠動脈の三層構造およびプラークの性状が観察可能である。さらに冠動脈ステント植え込み後の拡張評価において遠隔期再狭窄を軽減する上で重要な所見が得られる。すなわちステントの冠動脈壁への密着、最小血管内腔面積を評価し、エンドポイントを決めることにより当施設における血行再建後の再狭窄率は他施設に比し低率となっている。	
医療技術名 PTCA(POBA)	取扱い患者数 294人
当該医療技術の概要： 経皮的冠動脈形成術の基本であり、冠動脈狭窄病変をバルーンにて拡張する方法である。冠動脈ステントの台頭によりPOBA単独で終了する症例は減少しているが、ステント症例の増加に伴いステント再狭窄などでPOBAにて高圧拡張を行う例が増加している。	
医療技術名 冠動脈ステント	取扱い患者数 289人
当該医療技術の概要： 現在冠動脈インターベンション(PCI)の中心的治療方法であり当施設においても今年度の92%が本治療を選択されている。冠動脈内に筒状の金属を留置する方法であり数種類のステントが臨床使用されている。	
医療技術名 血栓吸引療法	取扱い患者数 89人
当該医療技術の概要： 急性心筋梗塞の血行再建において通常ステント留置では血栓による末梢塞栓がまれでなく、予後不良となる因子のひとつである。血栓吸引療法は閉塞した病変においてその血栓を機械的に吸引し末梢塞栓を防ぐ方法である。単純な吸引カテーテルと末梢に血栓をせき止めるためのバルーンを拡張させその上で吸引するdistal protection deviceに分けられる。後者は末梢塞栓が問題となる変性静脈グラフト病変の待機治療においても極めて有効であり当施設でも第一選択としている。	
医療技術名 終液ポリグラフィ	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要： 慢性心不全患者の30-70%に睡眠時無呼吸症が合併している。終液ポリグラフィによりtypeおよび重症度を判定し、mCPAP、ASL、夜間酸素治療のいずれの治療が有効か判定している。	
医療技術名 ASV Cadaptive servo-ventilator	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要： 上記、呼吸補助器具を使用することにより、重症心不全患者の血行動態を改善する事ができる。当院ではASV使用前後に心エコーによるパラメータをチェックし、導入が有効と判定できる患者様に導入治療をしている。	
医療技術名 冠動脈MDCT	取扱い患者数 300人
当該医療技術の概要： 胸痛スクリーニング、バイパス術後患者様の冠動脈病変、重症度、術後開存しているか等のスクリーニングを行っている。	
医療技術名 心臓MRI	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要： 造影5-10分後のdelayed enhancement MRI (DEMRI)により心筋壊死範囲と領域を判定し、心臓viabilityを評価している。	

医療技術名 関節リウマチ及び膠原病に対する免疫抑制薬の適正使用	取扱い患者数 400人
当該医療技術の概要: 種々の免疫抑制薬が関節リウマチ及び全身性エリテマトーデスなどの膠原病に対して使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行なった。	
医療技術名 関節リウマチ及びベーチェット病に対する生物学的製剤の適正使用	取扱い患者数 150人
当該医療技術の概要: TNF阻害薬などの生物学的製剤が、関節リウマチやベーチェット病に使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行った。	
医療技術名 二核種同時収集による三次元画像	取扱い患者数 50人
当該医療技術の概要: 頭頸部、脳に対し二核種の同時投与、収集を行い、病巣の確認を行う。心臓では、心機能、血流を同時に把握し、三次元画像として表示する。	
医療技術名 脳血管内外科手術	取扱い患者数 80人
当該医療技術の概要: 脳動脈瘤、脳動静脈奇形あるいは硬膜動静脈瘻に対して、コイルなどを使用し、血管内閉塞術を行う。	
医療技術名 脳室内出血に対する神経内視鏡下手術	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: より低侵襲な手術が可能となり、今後さらに症例増加が考えられている。	
医療技術名 脳機能モニタリング	取扱い患者数 40人
当該医療技術の概要: 術中に脳の運動機能・言語機能・脳幹機能をモニタリングすることにより、術後の神経欠落症状を軽減させ得る。	
医療技術名 未熟児脳室内出血後水頭症に対する待期的外科療法	取扱い患者数 4人
当該医療技術の概要: 未熟児脳室内出血後水頭症に対して、V-Pシャント術までにミニチュアCSFリザーボアを留置し、定期的に髄液排除を行い、児の生長を待って、V-Pシャント術を行う、もしくは、手術の回避を検討し得る。	
医療技術名 ケロイド・肥厚性瘢痕に対する治療	取扱い患者数 200人
当該医療技術の概要: ケロイド・肥厚性瘢痕に対し、部位、性状に応じて、切除手術、トラニラスト内服、トリアムシロン局注などの組み合わせ療法を行い良好な成績を得ている。	
医療技術名 色素性疾患に対する治療	取扱い患者数 300人
当該医療技術の概要: 外傷、熱傷後の色素沈着症、色素脱に対し、レーザー、削皮術、植皮術、軟膏療法等の組み合わせにより良好な治療成果を上げている。	
医療技術名 骨膜弁/HAP複合移植による頭蓋顎顔面の再建	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 外傷、悪性腫瘍摘出後の頭蓋顎顔面領域における骨欠損に対し、肋骨骨膜付広背筋弁および他の血管柄付骨膜弁を挙し、人工骨(ハイドロキシアパタイト)を被覆し、骨膜弁・HAP複合体を作成、移植を行い良好な治療成果を上げている。	
医療技術名 実物大臓器立体モデルによる手術計画	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は、多くが複雑な形状を呈している。形状を実物大立体モデル(模型)により手術前に把握し、手術計画をたて、術後の形状をシミュレーションすることにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。	
医療技術名 遊離・有茎動脈皮弁術	取扱い患者数 60人
当該医療技術の概要: 頭蓋顎顔面領域や、躯幹、四肢軟部悪性腫瘍切除後などの広範囲組織欠損に対し、マイクロサージャリーを用い、複合組織皮弁移植による再建を行っている。	
医療技術名 成長ホルモン治療	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 成長ホルモン分泌不全性低身長、ターナー症候群、軟骨異栄養症における成長障害に対し、成長ホルモン	

治療を行っている。	
医療技術名 肺高血圧に対するプロスタサイクリン(PGI ₂)(フローラン)持続静脈療法	取扱い患者数 35人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>原発性および二次性肺高血圧に対するプロスタサイクリン(フローラン)持続静注療法の開始ならびに在宅管理の指導を行い、全国症例の約1/4を観察中であり、良好な成績を得ている。特に若年例・小児例では全国の80%以上の症例を治療している。</p>	
医療技術名 小児期心疾患のカテーテル検査術	取扱い患者数 100人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>先天性心疾患と後天性心疾患(巨大冠動脈瘤を伴う川崎病、原発性肺高血圧など)に対し、心血管造影、選択的冠動脈造影などを行なった。適応と緊急度に応じて夜間や週末などにも対応可能である。</p>	
医療技術名 小児期心疾患のカテーテル治療	取扱い患者数 9人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>動脈管開存や肺動脈弁狭窄などの先天性心疾患及び術後末梢性肺動脈狭窄などの症例に対してカテーテル治療を行ない手術を回避し得た。</p>	
医療技術名 肺高血圧症等に対するNO吸入療法	取扱い患者数 4人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>原発性肺高血圧症、Eisenmenger症候群に代表される先天性心疾患に伴う肺高血圧症や重症肺炎に伴うARDS等の患児に対し間欠的ないし持続的にNO(一酸化窒素)を吸入させ、良好な結果を得ている。</p>	
医療技術名 慢性腎不全小児の成長の評価と治療	取扱い患者数 10人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>著しい、成長・発達障害をきたす小児の慢性腎不全に対し、透析中、腎移植後を含めて評価し、適応例にはホルモン療法を行っている。</p>	
医療技術名 新生児重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数 3人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>チアノーゼまたは重症心不全を呈する新生児早期の先天性心疾患に対するPGE1製剤などによる内科的治療及び新生児早期の開心術、短絡術を随時施行している。</p>	
医療技術名 新生児持続肺高血圧症における一酸化窒素吸入療法	取扱い患者数 3人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>新生児持続性肺高血圧症に対し、微量のNOガスを投与した。</p>	
医療技術名 肺サーファクタント補充療法	取扱い患者数 13人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>未熟児呼吸窮迫症候群に対し、人工肺サーファクタント補充療法を行った。</p>	
医療技術名 低出生体重児動脈管開存症に対するプロスタグランジン産生抑制療法	取扱い患者数 2人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>未熟児動脈管開存症に対し、その程度を正しく評価した後薬物療法で閉鎖させた。</p>	
医療技術名 臍動脈カテーテルによる循環の管理	取扱い患者数 10人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>臍動脈にカテーテルを挿入し、動脈圧を常時モニターすることにより重症新生児の循環管理を行い予後を改善した</p>	
医療技術名 新生児重症外科的疾患の治療並びに管理	取扱い患者数 1人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>先天的奇型に基づき、新生児の消化器、呼吸器、体壁などの重症疾患を手術的に救命し、術後の管理を行う。</p>	
医療技術名 重症新生児呼吸障害に対する治療	取扱い患者数 2人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>高頻度振動呼吸(HFO)により、重症新生児呼吸障害を治療した</p>	
医療技術名 未熟児貧血に対するエリスロポエチン投与	取扱い患者数 27人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>未熟児貧血に対し、エリスロポエチンを投与し、輸血の頻度を減少させた</p>	
医療技術名 超低出生体重児の管理	取扱い患者数 3人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>超低出生児の全身管理を行った</p>	
医療技術名 中心静脈カテーテル(臍静脈カテーテルを含む)による高カロリー輸液	取扱い患者数 23人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>中心静脈カテーテル(臍静脈カテーテルを含む)を挿入し、高カロリー輸液を実施することにより、低栄養状態を改善させた。</p>	

医療技術名	未熟児網膜症に対するレーザーによる光凝固療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 重症の未熟児網膜症に対し、眼科と協力してレーザーによる光凝固療法を実施して、失明を予防した。			
医療技術名	強膜トンネル付きトラベクトミー	取扱い患者数	22人
当該医療技術の概要: 難治性緑内障に対し、従来のトラベクトミーの短所を改良し、術後流出路の閉塞を起きにくくし、眼圧コントロールに良好な成績を得ている。			
医療技術名	二重強膜弁法トラベクトミー	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 従来のトラベクトミーの困難性を二重強膜弁を作成しアプローチすることにより、本法を簡単にし、さらにトラベクトミーへの変換、ジヌトミーの併用、白内障手術との同時手術に有用である。			
医療技術名	スーチャー・カナリゼーション(suture canalization)	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 従来のトラベクトミー、トラベクトロミーの術中および術後の合併症をより少なくした方法で、超音波水晶体摘出術、眼内レンズ挿入術との三重手術に応用し良好な成績を得ている。			
医療技術名	黄斑円孔に対する内境界膜剥離除去術	取扱い患者数	18人
当該医療技術の概要: 黄斑円孔に対して硝子体手術のみでなく、内境界膜を剥離除去することにより円孔の閉鎖率の向上を図る。			
医療技術名	光線力学療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 光感受性物質をあらかじめ血管内に取り込ませ、それに特定して感受性の高い波長の光を照射し、活性化し、組織を阻害し、新生血管を阻害し正常組織に対する障害をおさえる。その結果失明のリスクを減らす。			
医療技術名	極小切開白内障手術	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 外科手術は常に切開のダウンサイジング化が目標であると考えた。創に2mm以下の白内障術を目標に現在2.3~2.4mmにて手術を行なっている。			
医療技術名	総合周産期センターにおける早産予防の高度管理	取扱い患者数	153人
当該医療技術の概要: 総合周産期センター、母体胎児集中治療室において、厳重なモニター管理の下、妊娠継続を計っている。胎児娩出時期を周産期と検討し決定している。			
医療技術名	生殖補助医療における非侵襲的卵巣刺激法	取扱い患者数	480人
当該医療技術の概要: 従来にの卵巣刺激法と比較して、自然周期による低刺激卵巣刺激方法を施行することにより、身体的・経済的負担を軽減し、良好胚を獲得することができる。			
医療技術名	多胎妊娠の集学的治療法	取扱い患者数	26人
当該医療技術の概要: 双胎、品胎に対し、総合周産期センターにおいて、厳重な管理の下、早産、合併症の発症予防に周産期管理を行っている。特に、品胎に対しては、新生児科医、麻酔科医と連携をとり娩出時期を決定している。			
医療技術名	妊娠高血圧症候群妊婦の管理	取扱い患者数	37人
当該医療技術の概要: 食事及び薬物療法により、妊娠高血圧症をコントロールし、母児共に最適な時期での分娩時期を検討している。また、内科とも連携し、より詳細な母体の全身状態を評価している。			
医療技術名	腹腔鏡下手術	取扱い患者数	323人
当該医療技術の概要: 侵襲の少ない手術として、腹腔鏡下手術が年々増加している。腹腔鏡下に卵巣腫瘍、子宮筋腫核出術、子宮全摘術、子宮外妊娠の手術が施行されており、良好な成績をあげている。			
医療技術名	TESE-ICSI MD-TESE-ICSI	取扱い患者数	125人
当該医療技術の概要: 泌尿器科部門と協力し、無精子症症例に対して精巣組織より精子を回収し、精巣精子を用いた顕微受精を行い、従来自らの遺伝情報を継承した児を得ることのできなかつた重症男性不妊症症例でも児を得ることが出来るようになった。			
医療技術名	コルポスコピー検査	取扱い患者数	400人
当該医療技術の概要: コルポスコピーを用い、子宮頸部異型上皮、子宮頸癌の早期発見・早期治療に有用な検査を行っている。			

医療技術名 婦人科悪性腫瘍手術	取扱い患者数 120人
当該医療技術の概要: 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、外科的処置をメインに治療を行っている。	
医療技術名 婦人科悪性腫瘍に対する化学療法	取扱い患者数 80人
当該医療技術の概要: 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、各腫瘍・組織型に応じた抗癌剤を用いての化学療法を行い、良好な成績を得ている。	
医療技術名 外来化学治療	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: 主に卵巣癌術後再発患者さんに対して、QOLを重視し外来での化学療法を行っている。	
医療技術名 MEAによる過多月経の治療・管理	取扱い患者数 2人
当該医療技術の概要: マイクロウェーブの熱変性作用を応用し、子宮内膜を焼灼して、過多月経を治療する	
医療技術名 遺伝外来における遺伝相談および出生前診断	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要: 遺伝性疾患患因者、家族らの遺伝相談、出生前診断および周産期管理	
医療技術名 家庭用品健康被害モニター	取扱い患者数 25人
当該医療技術の概要: 種々の家庭用品による皮膚障害(刺激性、光毒性、アレルギー性、光アレルギー性、接触蕁麻疹等)例を報告するとともに、パッチテスト、光パッチテスト、皮内反応、プリックテスト等の検査を施行し、原因物質を確定し、再発の防止に役立っている。	
医療技術名 家庭用品臨床検査試験	取扱い患者数 60人
当該医療技術の概要: 家庭用品に用いる化学物質(抗菌剤、防腐剤等)の安全性をパッチテスト、光パッチテストを施行して調べている。	
医療技術名 ホルミウムレーザーによる治療	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: ホルミウムレーザー発生装置により、結石・尿路狭窄の治療を行っている。	
医療技術名 ホルミウムレーザーによる前立腺肥大症手術	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: HOLAP、HOLEPによる前立腺肥大症の手術療法を行っている。	
医療技術名 尿失禁に対するTVT手術	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 尿失禁に対して、女性医師による診療・治療、TVT手術を行っている。	
医療技術名 女性外来の開設	取扱い患者数 720人
当該医療技術の概要: 女性泌尿器科医師による女性専門外来を開設している。	
医療技術名 顕微鏡下精巣内精子採取術	取扱い患者数 50人
当該医療技術の概要: 通常の精巣内精子採取術でも精子を採取出来ない無精子症患者に対する最終的手術。	
医療技術名 逆行性射精に対する膀胱内精子回収術	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: DMや、後腹膜腔手術後の逆行性射精に対し、膀胱内に射精された精子を回収する方法。	
医療技術名 陰茎彎曲症形成手術	取扱い患者数 11人
当該医療技術の概要: 先天性陰茎彎曲症に対するプリケーション法 ペロニー病に対する静脈移植法	
医療技術名 内視鏡下鼻内手術	取扱い患者数 60人
当該医療技術の概要: 副鼻腔炎に対し、内視鏡下にて手術を施行する。	
医療技術名 3D-CTによる中耳耳小骨病変の画像診断	取扱い患者数 80人
当該医療技術の概要: 慢性中耳炎の手術前後に3D-CTで、中耳病変の立体的確認を行い手術成績を向上させる。	
医療技術名 耳科手術への硬性内視鏡の導入	取扱い患者数 50人
当該医療技術の概要: 外耳道から内視鏡を挿入して中耳内を詳細に観察して、内耳や顔面神経を損傷することのない安全な耳科手術をめざす。	
医療技術名 ナビゲーション システムを使用する副鼻腔手術	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要:	

解剖学的にアプローチが困難な副鼻腔手術に内視鏡とナビゲーションを併用した安全で確実な手術		
医療技術名	心身症のバイオフィードバック療法	取扱い患者数 24人
当該医療技術の概要: 片頭痛、緊張型頭痛、痙性斜頸、書痙等、主として神経筋肉系の心身症で、薬物療法では効果が不十分なケースは、現状では決め手となる治療が少ない。当院では、これらのケースにバイオフィードバック療法を行い成果をあげている。		
医療技術名	加算的平均心電図(LP)	取扱い患者数 109人
当該医療技術の概要: 心室細動、心室頻拍、発作性心房細動などの重症不整脈が出現する可能性を診断するために、心房、心室の遅延電位を計測する。		
医療技術名	超音波造影剤(ソナゾイト/ルボビスト)を用いた超音波検査	取扱い患者数 740人
当該医療技術の概要: 超音波造影剤(ソナゾイト/ルボビスト)を用いた消化器系腫瘍の質的診断と腫瘍凝固療法等の治療後効果判定やびまん性肝疾患(肝炎・肝硬変)の進行度評価法の検討。		
医療技術名	超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA,RITA)での肝腫瘍治療	取扱い患者数 125人
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA,RITA)での経皮的肝腫瘍の治療		
医療技術名	睡眠障害に対する終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱い患者数 37人
当該医療技術の概要: 終夜約8時間の脳波を含むポリグラフ記録を行い、不眠、過眠などの睡眠障害および睡眠随伴症の診断を行う。		
医療技術名	術中脳脊髄機能モニタリングとしてABR,SSEP,MEPの誘発電位記録	取扱い患者数 47人
当該医療技術の概要: ABR,SSEP,MEPの誘発電位記録を脳脊髄手術中に行い術後の神経欠落症状の出現を防ぐ。		
医療技術名	経食道心臓超音波検査(テボテ中含む)	取扱い患者数 189人
当該医療技術の概要: 先天性心疾患、弁膜症、人工弁置換術後、左心耳内血栓など通常の経胸壁エコー検査では、詳細な情報が得られない場合、経食道的アプローチは有用となる		
医療技術名	睡眠潜時反復測定法(MSLT)	取扱い患者数 2人
当該医療技術の概要: 客観的な日中の過度の眠気測定、特にナルコレプシーの補助診断のため、脳波記録を2時間ごとに繰り返し行い、眠りにつくまでの時間とそれに伴う臨床症状を記録する。		
医療技術名	PCPSの臨床応用の拡大	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要: 重症肺血栓塞栓症、心肺停止後の循環呼吸不全は早急に対応することが予後を決定する。このような疾患に対して循環呼吸不全に対する補助としてPCPSを臨床応用している。		
医療技術名	急性肺障害に対するCHDF療法	取扱い患者数 14人
当該医療技術の概要: 敗血症、アレルギー性肺臓炎、重症肺炎などに伴う呼吸不全に対しては根本的な原因に対する治療が必要であるが、呼吸不全の病態を増悪する humoral mediator や endotoxine などの吸着、除去を行いながら水分管理、腎不全管理を行えるCHDFを導入している。		
医療技術名	重症心不全患者に対する治療	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: 重症心不全患者に対し、人工呼吸管理をはじめ大動脈バルーンポンピングと併用し、新しい心不全薬を組み合わせた治療を行っている。		
医療技術名	特殊急性中毒に対する治療	取扱い患者数 10人
当該医療機関の概要: 一般中毒はもとより、自家製の青酸中毒キット、アセトアミノファン中毒キットを常備し、中毒物値をモニターしながら治療法を選択し、特殊な急性中毒に対処している。		
医療技術名	重症腹膜炎患者に対するエンドトキシン吸着療法	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 重症腹膜炎患者に対しては、緊急手術による原因治療を行い、さらにエンドトキシン除去を目的にエンドトキシン吸着療法を導入し、積極的な治療を行っている。		
医療技術名	重症肺炎患者に対する持続血液濾過透析、およびエンドトキシン吸着による治療	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 重症肺炎患者では血中サイトカイン、エンドトキシン除去を目的に持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着を行い、他の全身管理と併用して行っている。		

医療技術名	心肺機能停止例に対する蘇生術後の管理	取扱い患者数	20人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>東京消防庁のホットライン要請による病院前心肺停止例を24時間体制で受け入れ、二次救命処置による蘇生術を行い心拍再開例については引続き集中治療を行い完全社会復帰を目標に行っている。</p> <p>低体温療法も適応によって導入している。</p>			
医療技術名	化学発光抗体免疫測定法(CLEIA)を用いたIL6の測定	取扱い患者数	62人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>Intuloikin の測定は、今までのところキットが高価なこともあり、実際のSIRS等の診断や抗炎症治療の指標となり得なかったが、迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。</p> <p>IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。</p>			
医療技術名	早期経腸栄養	取扱い患者数	52人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>各疾患に対して、その病態において、適切な経腸栄養を早期から開始している開始時期は入室24時間以内を目標にしている。</p> <p>迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。</p> <p>IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。</p>			
医療技術名	Fluorescence in situ hybridization (FISH)法を用いたHuman Epidermal Growth factor Receptor (EGFR)遺伝子増幅の検査	取扱い患者数	25人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>癌の分子標的治療薬としてEGFRを対象としたそのチロシンキナーゼ活性の阻害剤が開発され臨床応用されている。本検査法はEGFR遺伝子増幅を原因としてその蛋白質が過剰発現しているかを判定し、これらの治療薬の効果予測を目的とする検査法である。</p>			
医療技術名	Fluorescence in situ hybridization (FISH)法を用いたアスペルギルス感染症	取扱い患者数	60人
<p>の診断</p> <p>当該医療技術の概要:</p> <p>真菌感染症の診断には培養法による確認が必須であるが、種々の補助診断法に頼らざるを得ない場合も少なくない。本検査法は真菌遺伝子に対する特異的プローブを用いたFISH法により、迅速かつ高い精度で真菌遺伝子の検出を目的とした遺伝子診断法である。</p>			
医療技術名	PTEG(経皮経食道的胃管挿入術)	取扱い患者数	3人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>PTEG(経皮経食道胃瘻造設)によって胃管留置を行うことにより、経鼻胃管不応例、胃瘻造設不応例の消化管外瘻が可能となった。</p>			
医療技術名	下部直腸癌に対する肛門操作先行の内肛門括約筋切除術	取扱い患者数	7人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>従来下部直腸癌に対しては、直腸切除術、永久人工肛門術が行われていたが、肛門温存術式として、内肛門括約筋切除術を施行している。当科では更に難易度の高い肛門操作を先行する術式を選択している</p>			
医療技術名	深部痔ろうに対するエコーナビゲーション手術	取扱い患者数	2人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>深部痔ろうの手術に際して、縮小手術を行うと再発率が上昇し、拡大手術を行うと、肛門機能の低下が危惧される。超音波ガイド下にリアルタイムに手術をすることにより、両者のバランスがとれた手術が施行可能となる。</p>			
医療技術名	肺繊維症に対するN-アセチルシステイン吸入療法	取扱い患者数	20人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>特発性肺線維症に対して N-アセチルシステインを吸入することにより、病状の進展を予防する。</p>			
医療技術名	チェーン・ストークス呼吸に対するASV療法	取扱い患者数	5人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>睡眠時無呼吸症候群の中でも中枢型はCPAP療法の効果が期待できず、適応補助換気(ASV)療法により良好コントロールを得る方法</p>			
医療技術名	慢性呼吸器疾患に合併する肺高血圧症に対する治療	取扱い患者数	5人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>原発性肺高血圧症の加療に近年用いられるボセンタンやシルデナフィルを続発性の肺高血圧症に対して適応を拡げて効果を得る方法</p>			
医療技術名	肥満低換気症候群に対するNPPU療法	取扱い患者数	2人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>肥満低換気症候群の治療は低換気を伴っているため、CPAP療法では不十分であり、NPPU療法により良好な換気補助を得る方法</p>			
医療技術名	間質性肺炎急性増悪に対するPMX吸着療法	取扱い患者数	3人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>IP急性増悪時は、ステロイドや免疫抑制剤で十分は効果を得られない事が多くあり、PMX吸着療法によりサイトカインなどで抑える方法</p>			

医療技術名 副甲状腺ビタミンD注入療法	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 長期透析合併症のひとつの2次性副甲状腺機能亢進症に対するインターベンション	
医療技術名 腹膜透析療法	取扱い患者数 11人
当該医療技術の概要: 透析導入時の選択のひとつとして、積極的にを行っている。QOLの面から血液透析にまさる面が大きい。	
医療技術名 小児、特に低体重・低年齢児に対する腎移植	取扱い患者数 12人
当該医療技術の概要: 体重が10kgに満たない、又年齢が5歳以下の末期腎不全小児の治療に、主に両親のいずれかを腎提供者とし、腎移植手術による治療を行っている。	
医療技術名 ABO式血液型非適合者間腎移植	取扱い患者数 8人
当該医療技術の概要: レシピエントの血中の抗A抗体、抗B抗体を除去し、AB型新鮮血凍結血漿を投与し、脾摘と嚴重な免疫抑制療法下に、従来禁忌とされた当該移植を施行している。	
医療技術名 HighRiskな原疾患を持つ患者への腎移植	取扱い患者数 7人
当該医療技術の概要: 巣状糸球体硬化症、Wegners肉芽腫、SLE糖尿病などHighRiskな原疾患を有し、原病再発・感染性合併症などを予防しつつ腎移植を行っている。	
医療技術名 第2次・第3次腎移植	取扱い患者数 3人
当該医療技術の概要: 拒絶反応や原疾患の再発等で移植腎機能を喪失した患者に対する再移植・再々移植でリスクが高い。	
医療技術名 内シャントのインターベンション治療	取扱い患者数 136人
当該医療技術の概要: 従来再手術でしか治療し得なかった内シャントに対してインターベンションにより、狭窄部を拡張し血流を確保し、観血的手術を行わず現存の血管を維持する。	
医療技術名 抗HLA抗体陽性例の腎移植	取扱い患者数 1人
当該医療技術の概要: 抗HLA抗体陽性患者に対してプラズマフェレーシス、リツキシマブ投与免疫グロブリン大量輸注により抗体を陰性化し、液性の拒絶反応を予防して移植腎を長期正着させる	
医療技術名 小児腹膜透析	取扱い患者数 3人
当該医療技術の概要: 小児に対する血液浄化法としての腹膜透析導入は成人と違い慎重な管理が必要である。	
医療技術名 顎変形症の手術	取扱い患者数 4人
当該医療技術の概要: 顎変形症手術のうち、下顎枝矢状分割法(SSRO)は術前後の顎関節偏位を極力少なくなることが求められる。当科で開発した顎関節Repositioning法は、専用の手術器械をSSROと共通化して手術時間の短縮を図るとともに、骨に対する余分な孔開けを廃止、出血量の削減と安全性の向上、かつ正確なRepositioningを実現したもので、従来の術式に比し明らかに良好な結果を得ている。	
医療技術名 出血性素因の口腔施術	取扱い患者数 90人
当該医療技術の概要: 抗血栓凝固療法下の患者における外科手術では、抗凝固剤の中断されることが多いが、独自の止血法により投薬を中断することなく手術を実施している。ほとんどの症例で後出血をみず、投薬の中断による原疾患への影響、再発や増悪のリスクを回避している。この止血法はまた、血小板や凝固因子系に異常をきたす疾患において輸血量削減に貢献している。	
医療技術名 Critical care を用する患者の口腔施術	取扱い患者数 70人
当該医療技術の概要: 呼吸循環モニター下に、全身状態の低下した患者、及び循環器系合併症を有する患者で安全な医療を提供している。	
医療技術名 口腔癌に対する集学的治療	取扱い患者数 9人
当該医療技術の概要: 進展範囲および病期別に、化学・放射線・手術療法のレジメンを定め、根治性と機能温存を最大限実現するためにマイクロサージャリー、各種インプラント、有茎・遊離自家組織移植の技術を動員して良好な治療成績をあげている。	
医療技術名 睡眠時無呼吸症候群の口腔装具による治療	取扱い患者数 9人
当該医療技術の概要:	

閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対し、当科で独自に開発した下顎位の移動量調節型Prosthetic mandibular advancement (東邦式PMA) は、顎関節や咀嚼筋群への副作用を減じ、治療継続におけるコンプライアンスを向上、有効率は90%以上を得ている。	
医療技術名 舌接触補助床による摂食嚥下障害の治療	取扱い患者数 4人
当該医療技術の概要: 摂食嚥下障害における舌接触補助床(特定の形態を付与した口蓋床)を調製・装着することにより、舌背と口蓋接触を助け、嚥下運動の補助・反射の促進を図る。これにより頭頸部領域の術後機能障害や、中枢性の嚥下障害等の患者において効果を発揮している。	
医療技術名 内視鏡視下椎間板切除術	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲手術をめざし、内視鏡視下にヘルニア腫瘍の摘出を行っている。	
医療技術名 脊椎固定術	取扱い患者数 71人
当該医療技術の概要: 脊椎の変形が不安定性に対して、ケージとスクリューロッドを用いて脊椎を固定し、術前症状の改善を図っている。	
医療技術名 顕微鏡下、椎間板ヘルニア摘出術	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要: 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲化をめざし、顕微鏡視下にヘルニア腫瘍の摘出を行っている。	
医療技術名 コンピュータナビゲーションシステムの使用	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 脊椎インストルメンテーション手術時に個々に最も適したスクリューインプレットの設置を行うためにコンピューター計測をもとにスクリュー刺入を正確に行うためにナビゲーションシステムを使用している。	
医療技術名 自己血回収、輸血	取扱い患者数 313人
当該医療技術の概要: 輸血をすることが予測される患者に対して、感染症の予防、輸血量削減を目的に手術中より自己血回収装置を使用している。人工関節置換術後のドレーン血も自己血回収装置を使用し回収しているが、有用な方法である。	
医療技術名 自己血輸血	取扱い患者数 421人
当該医療技術の概要: 保存血輸血による副作用を予防する目的で、輸血が必要である予定手術の患者に対して、あらかじめ術前に自己血を貯留し、術後保存血輸血を行わず、自己血のみを行っている。	
医療技術名 人工関節置換術	取扱い患者数 325人
当該医療技術の概要: 膝、股、肩、足、肘関節の変形性変化による疼痛、可動域制限などに対して、QOLの向上を目的として人工関節置換術を行い良好な成績を得ている。	
医療技術名 関節リウマチに対する生物学的製剤治療	取扱い患者数 81人
当該医療技術の概要: 関節リウマチの関節炎には炎症性サイトカイン(IL-1,IL-6,TNF- α 72など)が大きくかかわっていることが知られている。近年、関節リウマチの治療法として、これらの炎症性サイトカインに対する生物学的製剤が臨床応用されている。従来の抗リウマチ薬に抵抗性の関節リウマチ患者に対して生物学的製剤を用い治療している。	
医療技術名 悪性骨・軟部腫瘍広汎切除術	取扱い患者数 8人
当該医療技術の概要: 悪性骨・軟部腫瘍に対する広汎手術及び機能再建手術を行なっている。	
医療技術名 Off pump CABG(OPCAB)	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: 人工心肺装置を用いずに冠動脈バイパス術を施行している。高齢者や慢性腎不全患者などのハイリスク患者の成績向上につながり、虚血性心疾患患者のICU滞在期間、入院期間は大幅に短縮された。	
医療技術名 Endo Vascular Surgery	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: 閉塞性動脈硬化症の患者に対して、血管内腔側よりアプローチして、カテーテル法により、ステント装置により動脈狭窄部や閉塞部を拡張、著明な改善が得られている。患者に与える生体侵襲が低く、入院期間も短縮された。	
医療技術名 Minimally Invasive Cardiac Surgery	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 小児の先天性心疾患や成人の弁膜症患者に対して、皮膚小切開、胸骨部分切開により、心臓にアプローチして、	

小さな手術視野からでも人工心肺装置が確立できる特殊な送・脱血カニューレを使用し、低侵襲な開心術が可能となった。	
医療技術名 人工心肺装置・回路の低容量化と同種血輸血量削減	取扱い患者数 35人
当該医療技術の概要： 小児心臓手術を中心として、人工心肺装置・回路。低容量化を図り、同種血輸血量は大幅に削減され、無輸血率の著明な向上・改善につながった。	
医療技術名 大動脈血管内超音波検査	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要： 大動脈瘤・大動脈解離の手術成績向上のため、大動脈血管内超音波にて術前・術中に精査を行い、手術の低侵襲化につながっている。	
医療技術名 ボツリヌス毒素による顔面眼けんけいれんの治療	取扱い患者数 24人
当該医療技術の概要： ボツリヌス毒素を注射することで、顔面筋、眼けんけいれんを改善させる。	

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	31人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	23人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	23人	・原発性胆汁性肝硬変	30人
・全身性エリテマトーデス	182人	・重症急性膵炎	14人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	32人
・再生不良性貧血	18人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	31人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	29人	・特発性間質性肺炎	26人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	108人	・網膜色素変性症	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	37人	・プリオン病	28人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	127人	・神経線維腫症	0人
・大動脈炎症候群	9人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	4人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	15人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	38人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	22人	・脊髄性筋萎縮症	0
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	47人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	5人
・後縦靭帯骨化症	38人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	8人	・ミトコンドリア病	1
・ウェゲナー肉芽腫症	1人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	63人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	11人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	7人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーション手術	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・PPH	・
・胎児心超音波検査	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下肝部分切除術	・
・乳がんセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 65 例 / 部検率 6.20%

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
関節リウマチにおけるアディポサイトカインの臨床的意義	川合 真一	膠原病科	1,400	補助 文部科学省
生育疾患における診断技術治療法開発を目的としたポストゲノムプラットフォームの構築と応用-小児リウマチ性疾患、自己免疫疾患におけるマイクロRNA	川合 真一	膠原病科	2,000	補助 文部科学省
日中韓大臣声明に基づく医薬品の民族差に関する国際共同臨床研究	川合 真一	膠原病科	219	補助 厚生労働省
難治性疾患の医療費構造に関する研究	川合 真一	膠原病科	1,000	補助 厚生労働省
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	遠藤 平仁	膠原病科	900	補助 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究半	遠藤 平仁	膠原病科	150	補助 厚生労働省
難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究班	本間 栄	呼吸器内科	1,420	補助 厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	本間 栄	呼吸器内科	1,300	補助 厚生労働省
インフルエンザの死因となる急性肺障害の病態解析とモデル動物作成に関する研究	本間 栄	呼吸器内科	940	補助 厚生労働省
イボリクロナールグロブリン製剤化への安全性と臨床試験に向けた評価系の確立研究班	本間 栄	呼吸器内科	200	補助 厚生労働省
内臓錯位症候群の疫学と治療実態に関する研究	松裏 裕行	小児科	600	補助 厚生労働省
重症川崎病患者に対する疫学グロブリン・ステロイド初期併用投与の効果を検討する前方向的無作為比較試験	佐地 勉	小児科	15,764	補助 厚生労働省
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	佐地 勉	小児科	1,000	補助 厚生労働省
創薬基盤推進研究事業 政策創薬総合研究事業血管炎治療のための人工ボロクロナールグロブリン製剤の開発と安全性確保に関する研究	佐地 勉	小児科	700	補助 厚生労働省
難治性疾患克服研究事業 難治性川崎病の治療ガイドライン	佐地 勉	小児科	2,000	補助 厚生労働省
ヒト皮膚一次刺激試験における皮膚症状の画像解析技術を用いた判定評価法に関する研究	関東 裕美	皮膚科	500	委託 ポーラ化成工業(株)
生殖補助技術(ART)が児の遺伝子発現におよぼす影響に関する研究	片桐 由起子	産婦人科	2,000	補助 財団法人おぎゃー献金基金
ヒト精子幹細胞の同定及び機能解析	小林 秀行	泌尿器科	100	補助 文部科学省
分子レベルでの発症機構の解明を通じた感染症・免疫難病の新たな治療技術の創製	渡辺 善則	心臓血管外科		補助 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
片頭痛の診断・治療ガイドラインの標準化とその検証に関する研究	端詰 勝敬	心療内科	60	委託 厚生労働省
摂食障害の疫学、病態と診断、治療法、転帰と予後に関する総合的研究	坪井 康次	心療内科	50	委託 厚生労働省
解剖学的統計モデルを用いた顔のCG表現	丸山 優	形成外科	900	補助 文部科学省
クロイドにおけるMMPsとTIMPsの発現異常による増殖伸展機構の解明	今泉 りさ	形成外科	2,000	補助 文部科学省
環境内真菌の吸入と非感染症ヒト疾患との関連に関する研究	渋谷 和俊	病院病理部	250	補助 文部科学省
大腸癌における低酸素誘導ゲノム不安定性の分子機構の解明	渋谷 和俊	病院病理部	500	補助 文部科学省
新興・再興感染症研究事業「深在性真菌症と輸入真菌症に関する新しい検査法と抗真菌薬の開発並びに病院因子の解明に向けたポストゲノムの基盤的研究」	渋谷 和俊	病院病理部	2,000	補助 厚生労働省
感染症・免疫難病の先進医療技術開発	渋谷 和俊	病院病理部	1,900	補助 文部科学省
難治性疾患克服研究事業「特定疾患微生物学的原因究明に関する研究」	渋谷 和俊	病院病理部	4,500	補助 厚生労働省

計 28

(注) 1 国、地方共同団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った

研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
5th Shirota Conference	Bacterial fermentation in upper gastrointestinal tract.	瓜田 純久	総合診療科
臨床消化器内科	小腸機能検査の現状	瓜田 純久	総合診療科
Gastroenterol Endosc	十二指腸びまん性白斑日糖の吸収障害を示唆する	瓜田 純久	総合診療科
Annals of Nuclear Medicine 23 : 517-522, 2009	Characterization of Japanese standard for myocardial sympathetic and metabolic imaging in comparison with perfusion imaging.	山科 昌平	循環器内科
Circulation Journal 73 : 686, 690, 2009	Evaluation of sympathetic activity by 123I-metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in dilated cardiomyopathy patients with sleep breathing disorder	南條 修二	循環器内科
Circulation Journal 73 (5) : 918, 924, 2009	Inhibitory Effect of Valsartan Against Progression of Left Ventricular Dysfunction After Myocardial Infarction.T-VENTURE Study.	南條 修二	循環器内科
Circulation Journal 73 (5) : 918-924, 2009	Inhibitory Effect of Valsartan Against Progression of Left Ventricular Dysfunction After Myocardial Infarction.T-VENTURE Study.	南條 修二	循環器内科
Circulation Journal 73 : 1939-1944, 2009	Correlation between left ventricular diastolic function and ejection fraction in dilated cardiomyopathy using magnetic resonance imaging with late gadolinium enhancement.	南條 修二	循環器内科
Journal of Cardiology 55 : 180-188, 2009	Treatment of non-left main bifurcation lesions using the sirolimus-eluting stent : A comparison of chronic outcomes of cross-over single stenting and crush stenting.	内田 靖人	循環器内科
Journal of nuclear cardiology : official publication of the American Society of Nuclear Cardiology 16 : 753, 762, 2009	Dual molecular imaging for targeting metalloproteinase activity and apoptosis in atherosclerosis : molecular imaging facilitates understanding of pathogenesis.	藤本 進一郎	循環器内科
Wound repair and regeneration : official publication of the Wound Healing Society [and] the European Tissue Repair Society 17 (4) : 617- 625, 2009	Basic fibroblast growth factor induces down-regulation of alpha-smooth muscle action and reduction of myofibroblast areas in open skin wound.	鈴木 健也	循環器内科
Progress in Medicine 29 (6) : 1563-1568, 2009	CKD患者におけるN型Ca拮抗薬 (CCB) シルニジピンの腎保護効果	中野 元	循環器内科
Biochem Biophys Res Common 2009 Jan 9:378(2)218-223	Adiponectin stimulates IL-8 production by rheumatoid synovial fibroblasts.	北原加奈子	膠原病科
Mod Rheumatol 2009 Feb 19(1)12-19	Study of active controlled tocilizumab monotherapy for rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate(SATORI) significant reduction in disease activity and serum vascular endothelial growth factor by IL-6 receptor inhibition the	川合真一	膠原病科
Mod Rheumatol 2009 Jun 19(3)273-282	A combination of biochemical markers of cartilage and bone turnover, radiographic damage and body mass index to predict the progression of joint destruction in patients with rheumatoid with disease-modifying anti-rheumatic drugs.	川合真一	膠原病科
Mod Rheumatol 2009 Jun 19(3)329-333	Pharmacokinetic study and Fcγ rezeptoe gene analysis in 2 patients with rheumatoid arthritis controlled by low-dose infliximab.	川合真一	膠原病科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Prostaglandins Other Lipid Mediat 2009 Jun 89(1-2)26-33	Prostaglandin E2 activates RAP1 via EP2/EP4 receptors and cAMP-signaling in rheumatoid synovial fibroblasts	川合真一	膠原病科
Yakugaku Zasshi 2009 Jun 129(7)843-849	Preliminary Study to identify the predictive factors for the response to methotrexate therapy in patients with rheumatoid arthritis.	川合真一	膠原病科
J Immunol 2009 Jul15:183(2)1328-1336	Prostaglandin E2 differentially modulates proinflammatory / prodestructive effects of TNF-alpha on synovial fibroblasts via specific E prostanooid receptors /cAMP	川合真一	膠原病科
Yakugaku Zasshi 2009 Aug 129(8)1001-1005	Erythrocyte methotrexatepolyglutamate assay using fluorescence polarization immunoassay technique: application to the monitoring of patients with rheumatoid arthritis	川合真一	膠原病科
Mod Rheumatol 2009 Aug 19(4)351-357	Japan College of rheumatology 2009 guidelines for the use of tocilizumab, a humanized anti-interleukin-6 receptor monoclonal antibody, in rheumatoid arthritis.	川合真一	膠原病科
in Rheum Dis 2009 oct 68(10) 1580-1584	Long-term safety and efficacy of tocilizumab, sn anti-interleukin-6 receptoe monoclonal antibody, in monotherapy, in patients with rheumatoid arthritis (the STREAM study): evidence of safety and efficacy in a 5-yr extension study.	川合真一	膠原病科
Mod Rheumatol 2009 Dec 19(6)606-615	Efficacy and safety of tacrolimus for lupus nephritis: a placebo-controlled double-blind multicenter study.	川合真一	膠原病科
Mod Rheumatol 2009 Dec 19(6)616-621	Tacrolimus therapy for systemic lupus erythematosus without renal involvement : a preliminary retrospective study.	川合真一	膠原病科
Modern Physician	シルデナフィルおよびボセンタン併用投与が有効であった1例	後町杏子	呼吸器内科
厚生労働化学研究報告書	特発性肺腺維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNAC吸入療法に関する臨床研究	本間 栄	呼吸器内科
厚生労働化学研究報告書	早期特発性肺腺維症に対するN-アセチルシステイン吸入療法に関する前向き多施設共同治療研究	本間 栄	呼吸器内科
厚生労働化学研究報告書	特発性肺腺維症およびNAC単独吸入療法の効果とレドックス制御	杉野圭史	呼吸器内科
睡眠時無呼吸症候群	睡眠時低換気症候群と肥満低換気症候群	佐藤大輔	呼吸器内科
Am J surg 197(4) : e46-50,2009	Transanal rectal dissection:a procedure to assist achievement of laparoscopic total mesorectal excision for bulky tumor in the narrow pelvis.	金子 弘真	消化器外科
Am J surg 197(4) : e46-50,2009	Transanal rectal dissection:a procedure to assist achievement of laparoscopic total mesorectal excision for bulky tumor in the narrow pelvis.	金子 弘真	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.2009;16(4):405-9.Epub 2009 May 21	Status of endoscopic liver surgery in Japan:a questionnaire survey conducted by the Japanese Endoscopic Liver Surgery Study Group	金子 弘真	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.2009;16(4):633-8.Epub 2009 May 21	Laparoscopic hepatectomy for hepatocellular carcinoma in cirrhotic patients	金子 弘真	消化器外科
The Louisville Statement,2008,Ann Surg 250:825-830,2009	The international Position on Laparoscopic Liver Surgery.	金子 弘真	消化器外科
Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery;16(6):720-5,2009	Laparoscopic hepatectomy for liver tumors:proposals for standardization	金子 弘真	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床、67巻増刊号3肝癌、529-532、2009	【肝癌 基礎・臨床研究のアップデート】肝癌の治療 外科的治療 肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術	金子 弘真	消化器外科
臨床外科64巻13号、1683-88 2009	内視鏡下手術 もう一步のステップアップのために	金子 弘真	消化器外科
Progress in Medicine 29 (7) : 1809-1813、2009	フェノフィブラートのhs-CRP、PWVに対する改善効果—residual risk低域を目指した脂質治療—	中野 元	循環器内科
バイオメディカル (19) : 13-17、2009	急性肺炎で発症した血栓性微小血管障害 (TMA) の1例	坪田 貴也	循環器内科
心臓41 (12) : 1361-1365、2009	CPAの原因として多枝冠攣縮の関与が考えられた急性前壁梗塞の1例	新居 秀郎	循環器内科
日本救急医学会関東地方会雑誌 (30) : 28-29、2009	外傷性咽頭後隙血腫の1例	濱田 聡	循環器内科
Am J Case Rep 10:141-144,2009	Hyponatremia following administration of losartan,an angiotensin II receptor blocker,in a patient with isolated ACTH deficiency.	廣井直樹	糖尿病・代謝・内分泌科
Clinical and Experimental 70(6)439-448,2009	Effect of Rosuvastatin on Concentration of Plasma Lipids,Urine and Plasume Oxidative Stress markers,and Plasma High-Sensitivity C-Reactive protein in Hypercholesterolemic Patients With and Without Type 2 Diabetes Mellitus.	芳野原	糖尿病・代謝・内分泌科
Endocrine Journal 56(6)773-782,2009	Relationship of systemic oxidative stress to body fat distribution,adipokines and inflammatory markers in healthy middle-aged women.	WU B	糖尿病・代謝・内分泌科
Internal Medicine 48(7)577-578,2009	Urinary calculus after kidney transplantation with persistent secondary hyperparathyroidism.	吉原彩	糖尿病・代謝・内分泌科
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 17:410-415,2010	Small dense LDLand high-sensitivity C-reactive protein (hs-CRP)in metabolic syndrome with type 2 diabetes mellitus.	中野茂	糖尿病・代謝・内分泌科
Molecular endocrinology(Baltimore,Md) 24:204-217,2010	In vivo targeting of the growth hormone receptor(GHR)Box 1 sequence demonstrates that the GHR dose noto signal exclusively through JAK2.	石川真由美	糖尿病・代謝・内分泌科
Science Signaling3:107,2010	Noncoding RNA gas5 is a growth arrest-and stravation-associated repressor of the glucocorticoid receptor.	一城貴政	糖尿病・代謝・内分泌科
therapeutic Research 31(3)381-387,2010	The ACE inhibitor, imidapril improves insulin resistance and increases adrenal androgens to the same extent as the ARB, telmisartan.	上芝元	糖尿病・代謝・内分泌科
Thyroid 19(4)421-422,2009	Unusual oral ulceration, skin rash, and fever in a patient receiving propylthiouracil.	坪井久美子	糖尿病・代謝・内分泌科
Progress in Medicine 29(4) 1099-1103,2009	アゼルニジピン併用療法におけるインスリン抵抗性改善作用について	上芝元	糖尿病・代謝・内分泌科
Progress in Medicine 29(6) 1559-1562,2009	カルシウム拮抗薬のインスリン抵抗性改善作用と副腎アンドロゲン増加作用	上芝元	糖尿病・代謝・内分泌科
therapeutic Research 30(7)1229-1234,2009	肥満高血圧症におけるバルサルタン長期投与のインスリン抵抗性改善作用と副腎アンドロゲン増加作用	上芝元	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病53 (1) 24-29,2010	限局性脂肪間が血糖コントロールにより著名に改善した1型糖尿病の1例	小林結香	糖尿病・代謝・内分泌科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本内分泌学会雑誌85:110-112,2009	Cushing 症候群を呈した原発不明副腎皮質癌の1例	渡邊奈津子	糖尿病・代謝・内分泌科
日本内分泌学会雑誌85:1152-154, 2009	清涼飲料水ケトーシスを契機に診断されたCushing病の一例	杉野郁美	糖尿病・代謝・内分泌科
J Jpn Soc Simulation surg 2009	A case of increased N isopropyl-p-(123)iodoamphetamine uptake in primary central nervous system lymphoma.	黒木貴夫	脳神経外科
日本シュミレーション外科学会誌17:44-52,2009	ニューロナビゲータの精度に対する頭皮の影響	福井康二	脳神経外科
J Jpn Soc Simulation surg 2009	Usefulness of a neuronavigation system in neck clipping of distal anterior cerebral artery aneurism.	長尾建樹	脳神経外科
日本産科婦人科学会東京地方部会誌, 58(1): 74-79	脳転移を認めた再発子宮頸がんの例	飯塚裕子	産婦人科
東京都医師会雑誌62巻10号 page1956-1962	子宮筋腫に対する治療の選択肢と腹腔鏡下手術	森田峰人	産婦人科
日本産科婦人科学会雑誌61巻 号pageN551-554	問診と診察 産婦人科の診察方法	森田峰人	産婦人科
日本エンドメトリオーシス学会誌, 30: 121-124	腹腔鏡下に病変を切除し得た嚢胞性子宮腺筋症の1例	谷口智子	産婦人科
日本受精着床学会雑誌, 26(1): 136-141	DAY3 SETにおける移植胚の選択に対する検討	塩川素子	産婦人科
産科と婦人科76巻7号 page830-836	【産婦人科専攻医の研修 何を教える?何を学ぶ?】良性卵巣腫瘍の取り扱い	森田峰人	産婦人科
日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌47(1) 127-135.	腹腔鏡下子宮筋腫核出術における適応と限界についての後方視的検討	内出一郎	産婦人科
産婦人科の実際59巻3号381-387	【産婦人科診療 pros and cons】生殖 不妊患者の各種支給筋腫治療	内出一郎	産婦人科
産婦人科の実際59巻2号161-165	【高齢妊娠を考える】高齢妊娠・分娩の現状 育児希望の背景と妊娠の成立、分娩の現状	片桐由紀子	産婦人科
日本産科婦人科学会東京地方部会誌, 58(4): 404-407	卵巣腫瘍の疑いで当院紹介され腹腔鏡にて診断・治療した卵巣妊娠の1例	谷口智子	産婦人科
産婦人科の実際58巻8号 page1239-1242	生殖補助医療後妊娠と自然妊娠におけるインプリント遺伝子発現と出生時体重・胎盤重量の検討	片桐由紀子	産婦人科
日本受精着床学会雑誌, 26(1): 336-340	生殖補助医療におけるAntimuellerian Hormone値およびInhibinBと採卵数および臨床成績の相関について	宗 晶子	産婦人科
日本受精着床学会雑誌, 26(1): 333-335	卵巣容積と臨床成績の検討	福田雄介	産婦人科
日本受精着床学会雑誌, 26(1): 294-296	単一胚移植周期における臨床成績と多胎妊娠の検討	渡辺慎一郎	産婦人科
日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌, 58(2): 15-155	悪性卵巣腫瘍合併妊娠を疑った2例	大路斐子	産婦人科
日産婦内視鏡会誌, 25:366-369	骨盤内に漿液性嚢胞を伴ったアンドロゲン不応症の1例	玉置優子	産婦人科
Clin Pediatr Endocrinol18:95-100,2009	Genetic analysis in children with transient thyroid dysfunction or subclinical hypothyroidism detected on neonatal screening.	佐藤真理	小児科
Am J Perinatol 26:399-406,2009(2009年6月)	Clinical pattern in extremely preterm(22 to 24 weeks of gestation)infants in relation to survival time and prognosis.	飯嶋 重雄	新生児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg 87:305-307, 2009	Right ventricular placation in aneonate with anguarded tricuspid valvar orifice	与田 仁志	新生児科
Medical Postgraduate 47:79-84, 2009(2009年7月)	自然分娩後に後頭蓋窩硬膜下出血を発症した新生児の1例	飯嶋 重雄	新生児科
Pediatr Caldiol 30,e2009	Cardiac surgery in patients with trisomy 18.	与田 仁志	新生児科
周産期医学2009.39:1439-1443	アウトカムからみた周産期管理—新生児に対する介入—染色体異常児の心臓手術	与田 仁志	新生児科
周産期医学2010.40:375-379	品胎児の予後	与田 仁志	新生児科
周産期医学41 suppl:162-167,2009	双胎間輸血症候群：小児疾患診療のための病態生理	与田 仁志	新生児科
小児科学会雑誌113：1238-1244 2009	早産児のビリルビン脳症の臨床的特徴	与田 仁志	新生児科
小児科診療72suppl:492,2009	双胎間輸血症候群：小児の症候群	与田 仁志	新生児科
日小循誌25：216-220,2009	平成17～19年度研究課題報告 18および13トリソミーの心表現型・遺伝子型と予後	与田 仁志	新生児科
日小循誌25：221-223,2009	平成17～19年度研究課題報告 無脾症における重症感染症の疫学	与田 仁志	新生児科
日本未熟児新生児学会雑誌21：191-198,2009	医療の標準化—PDAの治療と診断	与田 仁志	新生児科
日本未熟児新生児誌22:104-110,2010(2)	新生児TSS様発疹症後の壊死性気管炎による気管食堂婁、気管気管支軟化症の1例	与田 仁志	新生児科
Am J Nephrol	Effects of New Peritoneal Dialysis , Pyridoxamine and AT1 Receptor Blocker , on TGF-beta1and VEGF Expression in Rat Peritoneal Mesothelial Cells	水入 苑生	腎センター
Am J Nephrol 30:295-302,2009	Effects of New Peritoneal Dialysis Solutions,Pyridoxamine and AT1 Receptor Blocker,on TGF betal and VEGF Expression in Rat	相川 厚	腎センター
Bio Clinica 24(14):1246-1252,2009	糖尿病腎不全患者の合併症	田中 健太郎	腎センター
Clinical Experimental Nephrology	Mewbranoproliferatire glomerulonephritis in a girl and her mother	酒井 謙	腎センター
Clinical Experimental Nephrology 13:77-80,2009	Membranoproliferative glomerulonephritis in a girl and her mother	酒井 謙	腎センター
Clinical transplantation 23(supple 20):44-48,2009	Clinical remission and pathological progression after tonsillectomy in a renal transplant with recurrent IgA nephropathy	酒井 謙	腎センター
Clinical Transplantation	Clinical remission and pathological progression after tonsillectomy in a renal transplant patient with recurrent IgA nephropathy	酒井 謙	腎センター
Internal Medicine(Tokyo,Japan) 48(7):577-578,2009	Urinary calculus after kidney transplantation with persistent secondary hyperparathyroidism	相川 厚	腎センター
腎と透析	子宮がん検診の翌日に腹膜炎を反復した腹膜透析患者の1例	相川 厚	腎センター
腎と透析	腹膜劣化の指標としてのPD排液凝固・線溶マーカー	相川 厚	腎センター
腎と透析別冊 腹膜透析2009	極めて良好に残存腎機能が保持されたPD患者の導入期に関する検討	大橋 靖	腎センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腎と透析別冊 腹膜透析2009 66(別冊):298-301,2009	極めて良好に残存腎機能が保持されたPD患者の導入期に関する検討	相川 厚	腎センター
腎と透析別冊 腹膜透析 2009(66): 298- 301,2009	極めて良好に残存腎機能が保持されたPD患者の導入期に関する検討	相川 厚	腎センター
腎と透析別冊 腹膜透析 2009(66): 537- 539,2009	子宮がん検診の翌日に腹膜炎を反復した腹膜透析患者の1例	相川 厚	腎センター
臨床皮膚科63(6):401- 404,2009	Calciophyraxisによる両下腿の巨大腫瘍の一例	酒井 謙	腎センター
血管外科25(1)2009	尿管総腸骨動脈瘻に対し自作ステントグラフトを血管内留置した1例	藤井 毅郎	心臓血管外科
胸部外科62. 24-27 2009	OPCABを標準術式としたCABGの手術成績向上の試み	渡辺 善則	心臓血管外科
Cardiovas.57. 79-86. 2009	study of coronary artery bypass using the PAS-Port device assessment by multidetector computed tomography	藤井 毅郎	心臓血管外科
筋の外科36(3):94-96,2009	乾癬性関節炎に対し人工関節再置換術を施行した1例	斎藤 宗樹	整形外科
日本人工関節学会雑誌39: 44- 45 2009	両側同時人工膝関節置換術の工夫と問題点	宮崎 芳安	整形外科
東日本整炎会誌21(4)531- 537,2009	人工股関節置換術後における肺血栓塞栓症の検討	奥秋 保	整形外科
Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology 3(2)60- 63 2009	生物学的製剤で関節炎はどう変化するか?	勝呂 徹	整形外科
整外看15(2) 110-117: 2010	人工関節の基礎知識	中村 卓司	整形外科
整外看15(2) 125-131: 2010	人工膝関節置換術メリット・デメリット	宮崎 芳安	整形外科
医療と社会(19)1 43- 49,2009	整形外科医療材料、インプラント機器の諸問題	勝呂 徹	整形外科
リウマチ科(42)1 55- 1,2009	人工関節感染症	勝呂 徹	整形外科
人工膝関節再置換術2-6,2009	日本における人工膝関節再置換術の現状	勝呂 徹	整形外科
人工膝関節再置換術41- 52,2009	人工関節の抜去法	宮崎 芳安	整形外科
人工膝関節再置換術53- 70,2009	骨欠損に対する手技	中村 卓司	整形外科
形成外科	【頭部・顔面の形成外科】外鼻欠損の再建法	丸山 優	形成外科
形成外科	私の手術と合併症回避のコツ 陳旧性顔面神経麻痺に対する笑いの再建術	丸山 優	形成外科
マイクロ会誌	われわれの開発した皮弁と分類に対する考え方	大西 清	形成外科
Surg Today	Repair of a recurrent rectovaginal fistula using glottal-fold flap:report of a case	大西 清	形成外科
形成外科	Lengthening temporalis myoplasty(島状側頭筋弁移行術)と顔面交叉神経移植による顔面神経麻痺	林 明照	形成外科
Facial N Res Jpn	Lengthening temporalis myoplastyと下口唇筋膜移植による下口唇形態を考慮した顔面神経麻痺再建	林 明照	形成外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
薬理と治療	抗真菌薬（イトラコナゾール）のケロイドに対する効果に関する検討—血管新生抑制作用について—	岡田 恵美	形成外科
日形会誌	超音波カラードプラーを用いた皮弁栄養血管の術前評価	荻野 晶弘	形成外科
J Cranio Fac Surg	Intraoperative repositioning assessment using navigation system in zygomatic fracture	荻野 晶弘	形成外科
Burns	Mimicking Kawasaki disease in burned children: Report of four cases	室 孝明	形成外科
Histopathology	Promoted activation of matrix metalloproteinase (MMP)-2 in keloid fibroblasts and increased expression of MMP-2 in collagen bundle regions: implications for mechanisms of keloid progression.	今泉 りさ	形成外科
Skin Research and Technolgr 2009,15 : 214-217	Effects of vitamin C on the lower eyelids: quantitative evaluation using image analysis and echogram	オオシマ ヒロシ	皮膚科
Skin Research and Technolgr 2009,15 : 496-502	Melanin and facial skin fluorescence as markers of yellowish discoloration with aging	オオシマ ヒロシ	皮膚科
JOHNS 26(1)23-26,2010	内視鏡手術専用の機器	枝松秀雄	耳鼻咽喉科
JPHNS26(1)23-26,2010	内視鏡下診療	枝松秀雄	耳鼻咽喉科
Otology Japan 20(1)31-35,2010	ナビゲーションと内視鏡を併用する耳鼻咽喉科領域の手術	志村文代	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科展望52 (5) 82-85,2009	鼓索神経に併走する骨格形成をみとめた中耳奇形の手術と3次元CT所見	安田真美子	耳鼻咽喉科
顎顔面補綴 32 (2) 100-105 2009	口腔悪性腫瘍術後の摂食嚥下障害に対する舌接触補助床を用いた機能回復法の有効性の検討（第1報）舌接触補助床使用群と非使用群の術後状態における比較	関谷 秀樹	口腔外科
J Med Soc. Toho 57(2):110-115,2010	Early enteral nutrition shortens ICU stay	藤本愛	救命救急センター
Int J Clin Oncol 14:497-501,2009	Usefulness of fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography for investigating unexplained rising carcinoembryonic antigen levels that occur during the postoperative surveillance of lung cancer patients.	磯部和順	病院病理
J Med Ultrasonics, e-pub 2009 (DOI 10.1007/s10396-009-0248-9)	Comparison of ultrasound colored image views produced by application of statistical analysis of radio-frequency signals and histological findings in patients with chronic hepatitis C.	渋谷和俊	病院病理
Int Med 48 : 1807-11,2009	Churg-Strauss Syndrome Presenting with Diffuse Alveolar Hemorrhage and Rapidly Progressive Glomerulonephritis.	杉野圭史	病院病理
Infection 37:547-50,2010	Disseminated Aspergillosis Following Resolution of Pneumocystis Pneumonia with Sustained Elevation of Beta-Glucan in an Intensive Care Unit : a Case Report	斎藤	病院病理
Respiratory 15:88-92,2010	Clinical characteristics of acute respiratory deterioration in pulmonary fibrosis associated with lung cancer following anti-cancer therapy.	磯部和順	病院病理
Clinical Neuroscience 28:306-307,2010	真菌とスピロヘータ感染症 カンジダ髄膜脳炎	中山晴雄	病院病理

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Cardiovaasc Surg Vol.16,No 1:21-25,2010	Late onset postoperative pulmonary fistula following a pulmonary segmentectomy using electrocautery or a harmonic scalpel.	渋谷和俊	病院病理
超音波検査技術 35.1:22-27,2010	Bentall 手術後の肺動脈解離を認めたMarfan症候群の1例	寶田雄一	病院病理
Nippon Ishinkin Gakkai Zasshi 51(1)31-45,2010	Histopathological study of candidal infection in the central nervous system.	渋谷和俊	病院病理
日本産科婦人科学界東京地方部会誌58(1)2009	脳転移を認めた再発子宮頸癌の1例	飯塚祐子	病院病理
日呼吸会誌 47(4):278-285,2009	間質性肺炎合併癌診断におけるFDG-PETの有用性の検討	磯部和順	病院病理
腎と透析66(4):693-95,2009	真菌症が発生したらどう対応すればよいでしょうか?	大久保陽一郎	病院病理
Inter Med,48:459-63,2009	Successful Treatment with Pneumonectomy for Pulmonary mycobacterium Abscessus Infection.	杉野圭史	病院病理
Jpn J Med Mycol,50:75-83,2009	Application of In Site Hybridization to Tissue Sections for Identification of Molds Causing Invasive Fungal Infection.	篠崎稔	病院病理
今日の移植 22:368-75,2009	深在性真菌症の病態と診断	渋谷和俊	病院病理
日呼吸会誌 47:512-17,2009	多発薄壁空洞を形成した細気管支肺胞上皮癌の1剖検例	磯部和順	病院病理
Inter Med,48:1283-7,2009	Tuberculosis Associated with Chronic Neutrophilic Leukemia.	杉野圭史	病院病理
J Orthop Surg,17:212-5,2009	Ligamentum flavum hematoma: a report of two cases.	高橋	病院病理
The JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 62:53-63,2009	抜き打ち感染 (Breakthrough infection)として発症した侵襲性ムーコル症の1剖検例	石原 晋	病院病理
Monthly Book Derma 148:7-11,2009	これだけは知っておきたい皮膚真菌症の知識-真菌症と病理	鈴木琢	病院病理
Liver Cancer,15(2):175-84,2009	IgG4関連病変が疑われた肝炎症性偽腫瘍の1例	塩澤一恵	病院病理
Intervirolgy 52:213-222,2009	Evaluation of the hemodynamic status of focal hepatic lisions 20mm or less in diameter	塩澤一恵	臨床生理機能部
Hepato-Gastroenterology 56:1585-1591,2009	Coo-tip 10-mm electrode useful for radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma.	和久井直之	臨床生理機能部
Hepato-Gastroenterology 56:1689-1695,2009	Analysis of patients with rapid aggressive tumor progression of hepatocellular carcinoma after percutaneous radiofrequency ablation.	塩澤一恵	臨床生理機能部
肝臓 51:56-58,2010	Sonazoid を用いたParametric Image により、短期間に sorafenib 治療における腫瘍血流動態の評価が可能であった進行肝細胞癌の1例	塩澤一恵	臨床生理機能部
Jpn J Med Ultrasonoics 36:301-318,2010	びまん性肝疾患の超音波診断-私の診断法-	住野泰清	臨床生理機能部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
映像情報メディカル 42: 258-265,2010	びまん性肝疾患の超音波診断：変わらぬ基本と最近の知見	住野泰清	臨床生理機能部
肝・胆・膵 60:395- 407,2010	造影超音波は臨床を変えるか-びまん性肝疾患-	住野泰清	臨床生理機能部

計 165

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	総務課 次長 鈴木良昭
管理担当者氏名	医療情報管理センター 次長 吉野彰 ・ 総務課 小鍛冶いづみ

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報管理センター 病院日誌は総務課	ターミナルデジット方式について分類
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
	高度の医療の提供の実績	診療科及び総務課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	診療科及び総務課
	高度の医療の研修の実績	診療科及び総務課
	閲覧実績	医療情報管理センター
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部及び医事課
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号の状況及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務課及び医療安全管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課及び医療安全管理部
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課及び感染管理部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染管理部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部及び中央放射線部
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部
第一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	
に掲げる	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	
体制の			
確保の			
状況			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部 総務課 次長 鈴木 良昭
閲覧担当者氏名	事務部 総務課 小鍛冶 いづみ
閲覧の求めに応じる場所	個人情報管理室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	43.7%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月3日
算出根拠	A: 紹介患者の数		15,059人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,839人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		6,399人
	D: 初診の患者の数		64,328人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>総則</p> <ol style="list-style-type: none">1. ①趣旨 ②安全管理に関する基本の方針2. 用語の定義3. 組織および体制 ①組織および体制 ②医療安全管理部の設置 ③安全管理対策委員会 ④事故調査委員会4. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 ①報告とその目的 ②報告に基づく情報収集 ③報告内容の検討等 ④安全管理のためのマニュアルの整備5. 医療安全管理のための研修 ①医療安全管理のための研修の実施 ②医療安全管理のための研修の実施方法6. 重大事故発生時の対応 ①救命措置の最優先 ②院長への報告など ③重大事故の当事者への対応 ④患者・家族への説明 ⑤関係省庁への報告 ⑥所轄警察署への異状死の届け出7. 患者・家族と医療従事者間の情報の共有8. 患者等からの苦情、相談への対応 ①患者等からの苦情、相談への基本的考え方 ②相談窓口の設置及び業務等9. 本指針の見直し	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) インシデント及びアクシデントの実態の把握をその背景要因の分析と評価2) 安全を確保するための具体策の策定と実施3) 安全を確保するためのマニュアル作成と励行4) 事故に至るヒューマンファクターの認識の向上を図るための院内研修の実施5) 他の病院における医療事故情報の収集とその要約の院内広報6) 事故防止策の定期的な点検の実施と改善及び検証	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年15回

・ 研修の主な内容：

- 1) 新型インフルエンザ講習会 (6/15実施：86名)
- 2) 第1回 医療安全研究会 (6/18実施：10名)
- 3) 第1回 病院全体研修 (7/6～7/7実施：1,660名)
- 4) 第11回 インфекションコントロールセミナー (7/31実施：123名)
- 5) 第2回 医療安全研究会 (8/31実施：43名)
- 6) 医薬品・医療機器安全使用に関する研修 (9/30実施：57名)
- 7) 第3回 医療安全研究会 (10/5実施：34名)
- 8) 第12回 インフェクションコントロールセミナー (11/20実施：115名)
- 9) 安全向上のためのチームワークトレーニングセミナー (11/22～11/24実施：51名)
- 10) 第2回 病院全体研修 (11/24～11/25実施：1,564名)
- 11) 第4回 医療安全研究会 (12/25実施：15名)
- 12) 第5回 医療安全研究会 (2/2実施：177名)
- 13) 第6回 医療安全研究会 (3/1実施：135名)
- 14) 第7回 医療安全研究会 (3/19実施：32名)
- 15) 平成21年度 未研修者研修 (6名)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 患者搬送 WG、パニック値検討 WG・CSII 検討 WG の立ち上げ
サインイン・サインアウト WG の継続 (評価・修正)
- 2) 医療安全マニュアル (全項目の見直しを実施)
 - ・ 事故発生時の対応マニュアル改訂
 - ・ 院内における暴言・暴力対策ガイドライン作成
 - ・ 緊急時の対応マニュアル作成
 - ・ 麻薬管理マニュアル・向精神薬取り扱い、毒薬・劇薬取り扱い要綱等の改訂
 - ・ チューブ・ドレーン類の抜去時の対応作成

<p>3) 緊急時の対応（産科危機的出血時・手術室大量出血時・局所麻酔アナフラキシーショック時等）のシミュレーション実施</p> <p>4) 安全管理対策委員会として、院内ラウンドの定期化及び医療安全管理部内での不定期院内巡視の実施</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	○有（2名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
<p>・ 所属職員： 専任（8）名 兼任（11）名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理対策委員会・セイフティーマネジャー会議・部内会議の資料及び議事録の作成及び保存、その他会議の庶務に関する事 2) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事 3) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関する事 4) 医療安全に係わる連絡調整に関する事 5) 患者等からの苦情、相談に関する事 6) 院内巡視 7) 医療安全管理研修会の企画及び準備 8) その他医療安全対策の推進に関する事 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	○有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 骨子一院内感染より患者及び医療従事者の身を守るために、手指消毒及び感染予防策を徹底させることを目的として策定した。</p> <ol style="list-style-type: none">1、感染対策に関する基本的考え方2、感染対策のための委員会及び感染管理部の設置と活動内容3、研修に関する基本方針4、発生状況の報告に関する基本方針5、感染症発生時の対応に関する基本方針 <p>等を中心に策定している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： 毎月第2金曜日を定例として委員会を開催。感染症発生通知書の集計報告、主要菌サーベイランス報告、マニュアル改定・作成報告、抗菌薬使用状況、耐性菌発生件数、厚労省・東京都等からの通達、研修報告などを行い、院内感染上問題となる状況やその徴候について審議している。また、衛生委員会、医療安全部との連携のもと感染対策の推進を図っている。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年32回
<p>・ 研修の主な内容： 1、全職員対象として年2回実施。①手洗いについて②正しいマスクの着用について 2、各職種にあわせた研修の実施。 医師－①耐性菌②抗菌化学療法について③抗菌薬の基本知識④結核についてなど 看護師－①感染基礎研修4回/年 ②看護部係会3回/年 その他、薬剤師、検査技師、理学・作業・言語療法士、ヘルパー、クラーク、清掃員業務士等への研修を実施している。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1、ICTラウンドの強化－耐性菌ラウンドの開始。病棟自己評価を年2回から年4回に変更。各病棟年2回のラウンド時には、診療責任者医師とリンクナースにラウンドに同行してもらい一緒に現場の問題を把握してもらうように改善した。2、蓄尿方法の改善－蓄尿カップは個人用としていたが、1回ごとの消毒が不徹底であった。デイスポ化の検討と、導入までの対策として使用後のカップは毎回必ず消毒するように変更した。3、抗菌薬長期投与者に対し病棟薬剤師、感染管理部で介入を開始した。4、MBPセットの物品払出しのシステム化	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 研修医オーダーリング操作研修、薬剤オーダーに関する注意（薬用量チェック、薬物アレルギーチェック、相互作用チェック、同効薬チェック） 2) 静脈注射研修「薬剤の基礎知識と管理」 3) セーフティマネジメントⅠ研修「危険な薬剤管理」 4) 職業安全衛生研修会「抗がん剤取扱い時の暴露防止」 5) 新採用者基本的看護研修「麻薬・向精神薬・毒薬の管理」 6) 感染「高カロリー輸液に関する留意点」 7) 医薬品・医療機器安全使用に関する研修「安全性情報報告制度」「医薬品副作用被害救済制度」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>1) 業務手順書の周知 2) 医薬品の管理 3) 患者に対する投薬指示 4) 患者に対する与薬 5) 医薬品の安全使用に係る情報</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1) 腎機能の急激な悪化により、薬剤の血中濃度が上昇し、重篤な副作用が発生した当院事例についてRMニュース配布</p> <p>2) 配合変化が多い薬剤についてRMニュース配布</p> <p>3) ウブレチド錠の用法・用量改定に伴い、当該薬品処方医師に個別メール送信し、処方量の変更を追跡調査した。</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 28 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：・ 輸液・シリンジポンプの操作、注意事項についての講義および実技指導・ 人工呼吸器の操作、注意事項についての講義および実技指導・ 除細動器の操作、注意事項についての講義および実技指導・ 閉鎖式保育器の操作、注意事項についての講義および実技指導	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (☑・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 外部委託（メーカー）定期保守：人工呼吸器、放射線治療装置、血液浄化装置・ 院内実施定期保守：除細動器、人工心肺装置、血液浄化装置、輸液・シリンジポンプ	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ リニアック機器取扱い安全研修：トラブルシュート：サーバーロック時の対処	